

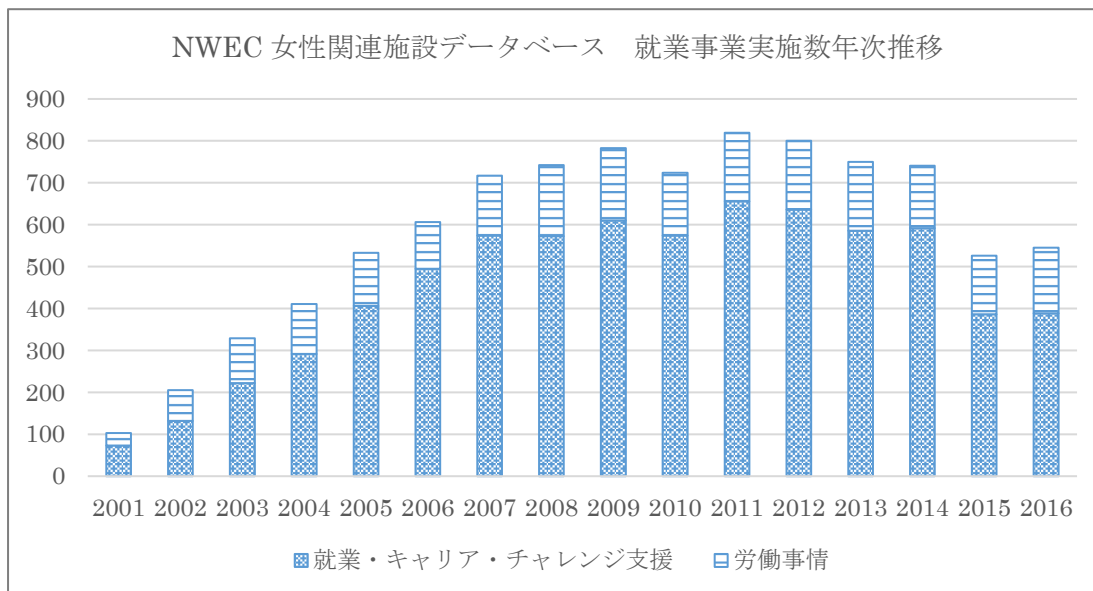
男女共同参画センターにおける就業支援事業について

瀬山紀子

全国女性会館協議会・埼玉県男女共同参画推進センター

1) 就業支援関連実施状況の年次推移

2015年以降減っている理由は？ 女性関連施設以外の部署等が実施している可能性もあるか。



2) 事業内容の多様な展開 ※事業全体が、人材紹介会社に委託実施されている例も多く
 <再就職支援系> ※就業希望のニーズをベースに、多くの事業が実施されている現状
再就職支援に向けた講座

- ・再就職に向けてのマインドアップ、働くことに関わる法的知識についての情報提供
アサーティブネストレーニング、ハラスメント防止
- ・再就職に向けた実践的講座
キャリアの棚卸し／求人情報の探し方／応募書類の書き方／面接準備／マナー講座
- ・パソコンスキルアップセミナー／資格取得のための講座
- ・ワークライフバランス、夫婦セミナー

再就職に向けた相談 ※キャリア・カウンセリングと就業支援はセットで行われることが多い

キャリア・カウンセリング（個別相談）

例 託児サービス付き 30分～45分程度の個別相談

仕事紹介（ハローワーク的機能）

<女性起業支援系> ※経済産業省の事業として展開している例も

- ・プチ起業セミナー（小規模店舗および店舗を持たずイベント出店を中心とする層を対象とした講座）
- ・起業女性同士のネットワーク形成支援、シェアオフィスの提供などの実践例も

・見本市等の実践の場の提供

<在宅ワーカー養成系> ※在宅ワークやクラウドワークといった、雇用類似の働き方は、現時点で、労働者としての法的保護が明確ではない状況であり、環境整備が同時に進められているが、課題も多いことが指摘されている領域。

養成講座 実践編 画像・動画編集／文字起こしコース／ライティング／WEB サイト制作
企業マッチング

<継続就業支援>

リーダーシップトレーニング／メンタルヘルスケア／チームマネジメント／キャリアプランニング支援

3) 男女共同参画推進センターの役割を踏まえた就業支援のあり方

- ジェンダーの問題によって生じている個別課題への対応
相談支援／就業支援などの支援事業
- ジェンダーの問題を抱えた社会の問題そのものの解決
＝「支援」が必要となる状況そのものの改善にむけた事業

女性と就業をめぐる状況

- ・ 続く性別役割分業型のケアレス男性モデルに基づく男性中心型労働慣行
- ・ 女性の多くがケアワーク（家事、子育て、介護等）の多くを担っている現状は変わらない
マタニティ・ハラスメントの顕在化
セクシュアル・ハラスメントの新たな顕在化も
継続就業の困難。仕事と子育てと介護、地域の役割等々の過重負担
- ・ 女性と就業に係る状況の複雑化（女性内の格差の拡大）
- ・ 女性就業者は拡大しているが、就業者の過半数が非正規就業者（＝不安定就業者）という現状
- ・ 配偶者控除の制度など、女性の就業抑制につながる制度の継続

「就業支援」のあり方

- ・ 再就職支援は現実的対応策ではあるが、現実には、非正規雇用層の拡大をもたらしてもいる
- ・ 「選択肢」についての情報提供（よりよい選択肢をどう提供していけるかが大きな課題）
- ・ よりよい労働市場、ディーセントワークが可能な働く場をどう作っていけるかが大きな課題
- ・ 労働部門、福祉部門と男女共同参画部門との連携が必要

持続可能な働き方・暮らし方の模索

- ・ 長時間拘束型の正規職員（正社員）と、不安定・低賃金の非正規職員という従来から続く性別役割分業型の就業のあり方を変えて、“多様な働き方”を可能にするにはどうしたらよいか。
- ・ 男女共同参画推進センターは女性（男性）の「働くことと生きること」に関わるテーマを掘り下げながら具体的な支援や対応を考える重要な拠点。そのための具体的な対応ができる組織づくり（労働部門との連携）と、より根本的な問題を考える場づくりの双方が必要。